

「集中治療が必要になった時のこと、 話し合ってみませんか」

自治医科大学 看護部
副部長 茂呂 悦子

2019年の年末から始まったコロナ感染症の世界的流行により「集中治療室」や「ECMO（エクモ）」という言葉がニュースでも聞かれるようになりました。しかし、集中治療やECMOがどのような治療なのかはあまり知られていません。集中治療室で治療を受けると聞いて「命が危ない状態」と受け止める方も多いのではないのでしょうか。また、医師の説明だけでは集中治療をイメージするのは困難であり、「先生方にお任せするしかない。まな板の鯉だから」と話す方もいらっしゃいます。

集中治療は、患者さんの命を救うだけでなく、退院後の生活の質をできるだけ入院前の状態に近づけることを目指しています。そのため、痛みなどの苦痛を緩和し、早い段階からリハビリテーションを開始するなど患者さんの回復過程に応じた治療・看護を行っています。しかし、集中治療に限らず、回復するには患者さんご自身の生きる力が大切です。ご家族は患者さんの励みや拠り所であり、私たち医療者は専門的な知識・技術を持って患者さんの生きる力を支援することが役割であると考えています。また、集中治療を受ける患者さんの精神的ニードは安心・安全と感ずることだとされています。自分が受ける治療やケアを自分で決めることは安心・安全と感ずることにつながります。そのため、集中治療に関わる私たち医療者は、患者さんやご家族の意思決定を支援し、

理解・納得して治療を受けられるよう努めています。

「集中治療が必要になった時」には大きく分けると2つあります。

①予定された手術や処置を受け一時的に身体に大きな負担がかかった時と②急な発症や持病の増悪で身体に大きな負担がかかった時です。いずれの場合も呼吸や循環など生きるために必要な機能が低下するため、緻密な観察や厳重な薬物管理、人工呼吸器・ECMOなどの医療機器を用いた集中治療が必要になります。

①予定の手術や処置で集中治療が必要になる場合、ほとんどの患者さんは予め医師から説明を受け、ご自身で考えたり、ご家族内で相談したりして治療を選択し決定することができます。一方、②急な発症や持病の増悪で集中治療が必要になった場合は、患者さんの意識がはっきりしないことも多く、ご家族が患者さんに代わって治療を選択し決定する代理意思決定を担うことになります。しかし、患者さんの意思を確認できない状態でご家族が治療を選択し決定することは容易ではありません。相談できるご家族が遠方ですぐには病院に来られないという状況もあります。

私たち医療者は、治療を決定する際、患者さんやご家族と一緒に患者さんにとって最善の治療は何かを考え意思決定を支援します。代理意思決定では、患者さんだったらこう考えるだろう、常日頃からどのような治療を受けたい・どのように生きたい・暮らしたいと話していたかなど患者さんが大切にしている心情や価値観に関する情報を大切にします。こうした情報や病状、治療の選択肢などをご家族と医療者が共有し患者さんにとっての最善を一緒に考えることが代理意思決定になります。

一見、集中治療が必要になった時の話は重篤な状態になった時の縁起でもない話という印象があるかもしれませんが。しかし、集中治療が必要になった時、納得し安心して医療を受けるために日頃からご家族や近い方々と自分の考えや生き方などについて話す機会をもっていていただけますと幸いです。

《講師略歴》

氏 名 茂呂 悦子（もろ えつこ）

《学歴及び職歴》

1991年 自治医科大学看護短期大学卒業
自治医科大学附属病院 消化器外科病棟配属

1994年 自治医科大学附属病院 集中治療部配属

2002年 集中ケア認定看護師取得

2009年 自治医科大学大学院看護学研究科博士前期過程 修了
急性・重症患者看護専門看護師 取得

2015年 自治医科大学附属病院 集中治療部 看護師長

2021年 同院 呼吸器外科・歯科口腔外科病棟 看護師長

2023年 看護部本部 看護副部長

《代表的著書》

・集中治療室入室中に人工呼吸器を装着した術後患者の回復を促すための看護援助の検討，日本クリティカルケア看護学会誌，6（3）；37-

45, 2010.

・せん妄であわてない. 東京. 医学書院 ; 2011.

・人工呼吸器装着患者の急変を見抜く, 実践フィジカルアセスメント, 東京, 南江堂 ; 141-145, 2012.

・ウィーニング中の頻呼吸は、原因が「呼吸筋力の低下」なのか、「不安によって起こっている」のかを鑑別しなければならない, ナーシング, 33(9) : 14-15, 2013.

・鎮痛・鎮静とリスクマネジメント, 急性・重症患者ケア, 3(1) ; 143-152, 2014.

・姿勢保持, クリティカルケア看護, 第1版 ; 210-216, 2019.